

濱口梧陵×濱口吉右衛門

その堤防は92年後の TSUNAMIから村を守った

1854年(安政元年)12月。2日連続で起きた安政東海地震と安政南海地震という大地震で、太平洋側で多くの人々が被災した。中でも紀伊半島沿岸部の被害は大きく、新宮などでは震度6以上の揺れが、串本には波高15mにも達する津波が襲来したといわれている。

「ヤマサ醤油」七代目「濱口儀兵衛」を襲名したばかりの「梧陵」は当時35歳。広村(現在の広川町)に帰郷していたその時、大地震に遭遇する。押し寄せる津波に梧陵自身も吞まれるが、辛うじて陸に上がりふと振り返ると、そこには悲惨な光景が広がっていた。あたりは既に仄暗く、津波に流された家屋や木材などにはがみつく人々は、陸の方向すらわからない。そこで梧陵は危険も顧みず、高台にある広八幡神社への避難路を示す明かりとして「稲むら」に火を放ち、村

人たちの救助と誘導を行った。この話は「稲むらの火」として長く語り継がれることとなり、2018年全国初の「防災遺産」として日本遺産に認定された。

そして津波が去った後、梧陵は村人の救援活動と村の再建に奔走する。村人たちは津波の再来におびえ、住むところもなく他所への移住を希望する者も少なくなかった。まずは被災者の食糧のために炊き出しを行い、広村堤防の築造で被災した村人に仕事を与え賃金を支払い、生活を安定させることで人口流出を防ぎたいと考え、被災者住宅の建設、流された道路や橋の修復工事など、本格的な復興事業に取り掛かる。しかし藩からの拠出は見込めず、地元の資産家であった濱口吉右衛門家(通称東濱口家)や岩崎明岳らと協力し、工事に着手。その工費は銀約95貫(金約1.6千両)で、他に

も家屋の新築や広橋の再建などに銀約240貫(金約4千両)を要した。高さ約5m、全長約600mにも及ぶ「広村堤防」の築造開始は地震からなんと3ヶ月後のことであった。東濱口家は濱口儀兵衛家(通称西濱口家)と同族であり、東濱口家が醤油販売を西濱口家が醤油製造を担当するという分業体制を維持してきたという。その後濱口梧陵は藩の勘定奉行や明治政府の初代駅通頭、晋の郵政大臣、初代県議会議長などを歴任するが、地元では濱口梧陵が当主を務めた西濱口家だけでなく、東濱口家や岩崎家に対する感謝を今も忘れてはいない。

そして安政大地震から92年後、昭和21年に発生した南海地震では、波高約4mの津波が再び広村を襲ったが、広村堤防は村の居住地区の大部分を守ったという。



円光寺に古くから伝わる「嘉永7年(安政元年)高浪之図」。当寺21代住職獅絃(しげん)の頃から伝わるが作者は不明。少し漫画のようだが、稲むらに火をつける人や大道を広八幡神社へと逃げる人などが詳しく描かれている。また高波が押し寄せた中央の一本松付近には、杖をつき笠を被った人物が町の様子を見に戻ろうとしているのが見て取れる。小姓を連れていっているところを見ると、梧陵なのか、それなりの地位の人とも思える。

円光寺
住所/有田郡広川町広1399
電話/0737-63-1808



濱口梧陵が稲むらに火を放ち、村人を避難させた広八幡神社。標高約12mの境内には、梧陵の功績を讃える「濱口梧陵君碑」が建てられている。

広八幡神社
住所/有田郡広川町上中野206
電話/0737-62-2371



濱口梧陵の生家で、現在は濱口梧陵記念館として、生い立ちから晩年までの足跡を見ることが出来る。津波防災教育センターが隣接して建つ。「稲むらの火」に由来して国連により11月5日は、世界津波の日に制定された。

濱口梧陵記念館
住所/有田郡広川町広671
電話/0737-64-1760



東濱口家西濱口家の先祖が住職を務めた安楽寺。江戸時代に入り濱口家は醤油醸造に着目。江戸の需要を見越し銚子に醤油蔵を設け、長男は醤油の販売を、次男は醤油の醸造(現在のヤマサ醤油)を行った。

安楽寺
住所/有田郡広川町広543
電話/0737-62-3994



広村堤防に2か所ある切り通しのうちのひとつで、通称「赤門」と呼ばれる防潮扉が設置されている。1926年にはじめて設置され、現在のものは1980年に作られたもの。地元の人々の重要な生活道路として使用されている。



広川町広の仲町に建つ東濱口家の住居。主屋は約300年前に建てられ、その後、木造3階建ての御風楼(ぎよふうろう)と呼ばれる迎賓施設が増築された。各階それぞれに異なった趣の景色を楽しめるように設計されており、勝海舟や犬養毅なども来邸したという。特に3階部分はずっとも華やかで格式も高く、雨戸を開けると270度の視界が広がり絶景を楽しむことができる。

東濱植林株式会社
住所/有田郡広川町広1302-1
電話/0737-63-2211



重厚な本瓦屋根に、漆喰や船板の外壁などの意匠から往時の雰囲気を感じられる広地区の街並み。東濱口家付近はまるでタイムスリップしたかのような趣を残す。古い街並みには道幅が広いのも特徴的。